

成果報告書

「大学を拠点にスポーツを通して地域の子どもの居場所づくりの実践的研究
—子どもが変われば親も変わる」

浜松学院大学 現代コミュニケーション学部 大野木ゼミ

指導教員：教授 大野木龍太郎

参加学生：浅井茉莉乃、岩崎茜、大石楓、勝亦彩、清水淳哉、
高橋拓也、竹下雅、外山群、中野智晴、良知航

1 要約

浜松学院大学大野木ゼミナールでは、放課後の地域の子どもの居場所づくりについての実践的な研究をおこなった。

第一に、子どもの放課後の実情を探るために、浜松市中区広沢小学校区、富塚小学校区、追分小学校区の保護者を対象とした子どもの放課後の過ごし方に関するアンケート調査、ならびに子どもの居場所づくりに取り組む「富士市NPOゆめまちねっと」への視察をおこなった。その結果、大半の保護者は今の子どもたちは自分が子どもの時と比べて、外遊びをしなくなっていると感じており、放課後の外遊びは重要だと認識されているにも関わらず、半数近くの子どもの放課後の外遊びをする時間が持てていないことが明らかとなった。

第二に、大学近隣に住む小学生を対象に、スポーツ活動をベースとした子どもの居場所づくり「スマイルスポーツクラブ」（略称 スマスポ）に取り組んだ。毎週月曜日の夕方年間を通して継続的な開催、夏冬の合宿、親子で楽しめるイベントを実施してきた。子どもの遊び場の提供と同時に、子どもが遊べる時間と空間と仲間の必要性を自覚してもらえるように保護者の意識に働きかけを試みた。

本研究で行ったスマスポの活動を通して、参加する子どもたちにとっての居心地の良い雰囲気づくり、保護者との信頼関係を築くことができた。本活動で得た研究実績は、冊子として学校や地域に配布を行い、地域全体に子どもの遊びと三間（時間・空間・仲間）の重要性の啓発に役立てていく。

2 研究の目的

地域の子どもの放課後の過ごし方が変容している。三つの間（時間・空間・仲間）をどう子どもに保証していくかが問われている。大学という安全な場所で、平日の放課後に、学校や学年や性別を問わず、大学生が子どもに寄り添いながら、スポーツを通しての居場所づくりの視点から実践的に探究する。地域の子どもの放課後の過ごし方を、スポーツを通しての居場所づくりの視点から実践的に探究する。

3 研究の内容

大学近隣に住む小学生を対象に、大学（主として体育館）を拠点に、大学生がスタッフとなり、スポーツ活動や伝承遊び（鬼ごっこがメイン）をベースに、子どもの居場所づくりを進める。その中で、そこに子どもをあずける保護者の意識に働きかけ、放課後に子どもが遊べる時間と空間と仲間の必要性を自覚してもらえるように働きかけを行う。

4 研究の成果

（1）当初の計画

本研究は、放課後の子どもの過ごし方の実態を把握するための調査と放課後の居場所づくりの2つを目標に掲げ、下記のような計画を試みた。放課後の居場所づくりでは、毎週

平日（月曜日）の放課後（16：00～18：00）の通常活動としての「スマスポ」に含め親子で楽しんでもらえるようなイベント型の活動「スマイル合宿」「親子スマイル」の実施も当初から計画をおこなった。

【当初の年間活動計画】

4月	スマイルスポーツクラブの準備	24日スタート
5月	通常活動、ゼミ研修合宿（富士市NPOゆめまちねっと）	
6月	通常活動、親子スマイル、合宿下見	6月あたり
7月	通常活動	
8月	スマスポ合宿（2泊3日）西伊豆やまびこ荘 or 水窪田楽の里	
9月	ゼミ合宿 浜松青少年の家（1泊2日）	
10月	通常活動・アンケート作成	
11月	通常活動、学園祭スマイル祭り 富士市NPOゆめまちねっと合宿 アンケート実施	
12月	通常活動、親子スマイル②（佐鳴湖ウォーキング）、アンケート集計	
1月	通常活動、アンケート分析	
2月	通常活動、冬合宿 長野方面（1泊2日）	
3月	通常活動、親子スマイル③	

（2）実際の内容：B（一部修正）

実際には、下記のような日程で進められた。実施時期は、学生のスケジュールとの調整により一部変更があったが、問題なく実施することができた。年間を通して、放課後の居場所づくりに取り組んできた。10月～12月には、アンケート調査や視察をおこない、子ども放課後の過ごし方の実態の把握をおこなった。

【実際の年間活動実績】

4月	スマイルスポーツクラブの準備	24日スタート
5月	通常活動（5回）	
6月	通常活動（4回）、親子スマスポ①（親子運動会）	
7月	通常活動（4回）、スマイル夏合宿下見	
8月	スマスポ夏合宿（2泊3日・掛川ならこの里）	
9月	親子スマスポ②（インターナショナルスクールの子ども達との交流）	
10月	通常活動（4回）	
11月	通常活動（4回）、学園祭「よろずやのぎちゃん」 ゼミ研修合宿（富士市NPOゆめまちねっと）、アンケート作成	
12月	通常活動（3回）、親子スマスポ③（佐鳴湖ウォークラリー） アンケート実施・集計	
1月	通常活動（3回）、親子スマスポ④（こま保護者講演会）アンケート分析	
2月	通常活動（3回）、スマイル冬合宿1泊2日（長野県高遠少年自然の家）	

（3）実績・成果と課題

① 放課後の子どもたちの実態調査

（ア）アンケート調査

12月1日～15日に、浜松市中区広沢地区（広沢小、追分小、冨塚小）の子どもの保護者（n=500）を対象とした放課後の過ごし方に関するアンケート調査をおこなった。アンケートの結果は、以下のとおりである。（郵送による回収226世帯）

- ・ 放課後の子どもの過ごし方で足りていないものを尋ねたところ、「足りている」と回答したのが27%だったのに対して、足りていないものは、「時間」（29%）「空間」

(27%) 「仲間」 (8%) という結果になった。

- ・ 「公園や広場、公園で友達と外遊びする」ことへの問いに対し、79%の親が「非常に重要だと思う」「重要だと思う」と回答した。にもかかわらず、実際に遊んでいる時間は、「ほとんどない」「週に1回程度」と回答した保護者が78%もいた。
- ・ 子どもがよく過ごす場所として「自分の家」(83.2%)が最も多かった。対して、「公園、空き地、広場など」(13.6%)、「学校の校庭や体育館」(9.5%)と外で過ごしている子どもが少なかった。
- ・ 「親の世代に比較して、子どもは外で遊ばなくなりましたか」と尋ねたところ約9割が「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と答えた。その理由として、「学習塾や習い事、クラブ活動などが忙しかったため」「電子ゲームをして過ごす子どもが増えたから」「不審者や犯罪等、地域が安全でなくなったから」という順に多かった。
- ・ 子どもの放課後に何が必要かという質問では、「子どもが自由に、安全に遊べるような広場や公園」(84.1%)「子どもが自由に、安全に遊べるような児童館や公民館などの屋内施設」(39.1%)が求められていることが分かった。

(イ) 「富士市NPOゆめまちねっと」への視察

11月18日・19日に、子どもたちの居場所づくりに取り組む「富士市NPOゆめまちねっと」への視察に行った。視察内容として、「冒険遊び場たごっこパーク」への見学・参加と「おもしろ荘」での研修会に参加をした。「冒険遊び場たごっこパーク」では、あいにくの雨天だったが、たき火の前で子どもと話したり、川で魚を捕りに行ったりと子どもたちが自由に過ごしている姿が見受けられた。「おもしろ荘」での研修会では、このNPOを運営する渡部達也さんから、児童虐待や貧困、いじめなど生きづらさを感じてしまう子どもたちへの居場所の必要性をゼミナールの学生に講演していただいた。

調査・視察を行い、子どもたち遊び場の重要性と必要性を知ることができた。アンケートの結果、子どもの外遊びを行うことが、重要だと考えられているにも関わらず、親世代の時に比べて少なくなってきた。子どもたちが、安心して遊べるような居場所が、保護者にとっても子どもたちにとっても、身近にあることが、求められている。



【スマイルスポーツの様子】

② 放課後の居場所づくり

(ア) 「スマイルスポーツクラブ」の実施

毎週月曜日の16:30~18:00に地域の子どもたちに遊び場を提供する取り組み「スマイルスポーツクラブ」を実施した。スマスポで行った遊びとしては、かけっこやリレー、鬼ごっこや氷鬼、ドッジボール等のスポーツと伝承遊びを実施した。1日に行う内容は、実施前に大学生が話し合っ

(イ) 親子スマスポ・スマスポ合宿などのイベント

スマイルスポーツでは、年に7, 8回「親子スマスポ」「スマスポ合宿」などのイベント

型の活動にも取り組んだ。「親子スマスポ」は、子どもと保護者が一緒に身体を動かせるような活動にしていくことを意識して企画・運営をおこなった。「親子合同運動会」や「流しそうめん」「餅つき大会」「伝承遊びでつながる」など通常の活動とは異なり、保護者が積極的に参加してもらえらるような活動を行うことができた。

「スマイル合宿」では、夏と冬の2回実施した。子どもが自然とふれあいや友達と助け合うことで、帰ってきたときの子どもの変化を感じてもらえらるような内容を行った。

今年度のスマスポは、計30回実施し、毎回約35名程度の子どもが参加してくれた。定期的な遊び場の提供は、参加する子どもたちにとって、1週間の中の楽しみになっており、自分自身を認めてくれる心理的な居場所にもなっている。スタッフとして行う大学生は、子どもたちに飾り気なく自然体で接しているため、子どもたちに信頼できる関係性が築けている。(ナナメの関係)

保護者の方には、一定時間安心した環境に預けられるため、自分自身の時間が持つことができていると評価していただいた。また「親子スマスポ」等のイベント行事で、たくさんの方が参加してもらえらることもできた。一部では保護者同士のつながりも生まれ、スマイルスポーツクラブの場が多少ではあるが、子育てのゆとりを生み出していると考えられる。

(4) 今後の改善点や対策

「スマイルスポーツクラブ」の今後の課題として、子どもたちの時間への対応が課題としてあげられる。スマスポを行う月曜日の16:30~18:00に行うことは、決まった時間に、決まった場所で、遊び場が開かれるということは、参加する子どもや預ける保護者にとってゆとりを持たせられる。その一方で、月曜日に習い事をする子どもへの参加が難しい。別の時間にも設けることを検討する必要があるだろう。

また、場所の提供の難しさも活動を通じて見えてきた。スマイルスポーツは、安全面から屋内環境で行ってきた。一方で地域においては子どもの外遊びを求める声が多くあり、子どもにとっても自由性が高く、より伸び伸びとして運動することができる。今後は、イベント型の活動で戸外の外遊びを積極的に増やしていきたい。

5 地域への提言

スマスポに参加している保護者も、子どもが地域で遊べる場所だけでなく、仲間もいないこともかなり気にしており、学校を問わず、学年を問わず、子どもが集えるスマスポは子どもにとっても保護者にとっても貴重な居場所になっている。こうした場所を、学生が運営協力者となり、地域にどう増やしていくかが課題である。

環境の変容により、子どもたちの外遊びをおこなえる時間が以前に比べ、減ってきている。公園や学校の校庭は、第三者の苦情、ルールやマナー等によって、以前のように外遊びができなくなっている。子どもたちが自由に安全に遊ぶことができる生活環境の在り方について、行政や地域住民の中で考えていく場をつくることが重要である。

6 地域からの評価

「スマイルスポーツクラブ」のイベント「親子スマスポ」では、いつもスマスポに参加してくれる方以外にも、多くの地域の方に参加していただいた。子どもだけでなく保護者の方にも、スポーツや伝承遊びを楽しんでもらえた。

今回行ったアンケート調査・スマイルスポーツの成果は、冊子にまとめ、各小学校や地域に配布をおこない、子どもの放課後の居場所づくりの重要性・必要性へのさらなる啓発活動に役立てていきたい。